

第 23 回 番組審議会議事録概要

1. 開催日時

令和 5 年 8 月 22 日 (火) 午後 17 時 00 分より

2. 開催場所

東京都港区台場 2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 渡邊健一、池田哲雄、笹田佳宏、砂川浩慶、長谷川晶一

(欠席 : 宮崎美紀子)

株式会社サテライト・サービス

加藤浩輔、石井浩二、窪田正利、永竹里早、岡本栄史、武井俊人

株式会社フジテレビジョン

横井沙織、中田智之

株式会社 JCOM

斎藤弘之

株式会社 WARNER BROS. DISCOVERY

土谷大輔、高山真詩

株式会社 CJ ENM JAPAN

三澤法夫、金琴實

4. 議題

1) 「ジョーズ vs 巨大イカ」

アニマルプラネットにて令和 5 年 8 月 14 日放送

2) 「監督一年生 埼玉西武ライオンズ 松井稼頭央

～新監督の船出 密着ドキュメント～」

フジテレビ TWO ドラマ・アニメにて令和 5 年 7 月 18 日放送

3) その他 報告事項

審議に先立って加藤社長から以下の報告があった。

- ・スペースシャワーTV、Mnetの2チャンネルについて、今年の5月11日に衛星基幹放送業務認定が無事更新された。フジテレビの3チャンネル、ディスカバリーチャンネル、アニマルプラネットに関しては来年5月に更新の予定。
- ・長く審議委員をつとめていただいた竹中尚人委員が8月をもって退任となった。長年のご支援、ご指導にこの場を借りて感謝を述べたい。

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■アニマルプラネット 「ジョーズ vs 巨大イカ」について

- ・ものすごくテーマがわかりやすくワクワクする。
- ・最初はどんな番組を作るのだろうとどちらかというと冷めた気持ちで見えていたが、実際はあまり見る事のない、鯨が実際に行動を起こしてくる海中の映像などを順番に見せてくるところが非常に面白く感じた。
- ・一番驚いたのは、生身の人間を隙間スカスカのケージに入れて海に沈めたこと。日本のテレビ番組では真似できない大胆な撮影手法だ。檻の中に入って本当にどうやって撮ったのかなと感心する。素直にあっばれと評価したい。海の中の映像は素晴らしく、1時間があっという間に感じた。
- ・鯨は垂直に襲うと捕食が容易になるなど、鯨が獲物を捕らえる様子などの生態を見せるところが非常に良い。鯨という魚の様々な知性の働きを学べる作品。また全力で逃げるアザラシを生まれて初めて見た。アニマルプラネットのこういった映像作品のシリーズは科学絵解き番組といった印象を受ける。絵解き番組としてはとてもよくできていた。
- ・鯨模様の帽子や服に「鯨愛」が溢れている博士とリリーのキャラクターも良い。
- ・最強の鯨「ホホジロザメ」と伝説の怪物クラーケンを彷彿させる「ダイオウイカ」の対立構図にも引きつけられた。鯨とイカの異種格闘技戦という、捕食関係を描く作品としてはあまり見たことが無い作品で、ドキュメンタリーに対する日本の見方と海外の見方は違うものだと楽しめた。
- ・グアダルーペ島が結局どこかがわからなかった。ずっとナレーションで出てくるのであれば説明が欲しかった。
- ・子供が見る番組としては怖いのでは。うちの子供は鯨の目を怖がってしまった。
- ・どのような結論で終わるのか、途中まではぐいぐい引き込まれていたが、架空の対決をCGで見せられ、興醒めした。最初にエンターテイメントより期待してしまったために、その肩すかしがちょっと強かった。

・終盤、ズッコケた。ナレーションの「チームは信じられないものを目撃しました」の意味がわからない。ホホジロザメとアメリカオオアカイカが近くに現れたというだけで、両者の対決はなく、鮫が攻撃したのはLEDルアー。どのあたりが「信じられない」のか、博士の言葉が足りないなら番組側で補足説明してほしい。そして最後は空想のバトルシーン。鮫とダイオウイカの対決現場を撮影することが難しいのは冷静に考えればわかることではあるが、煽られるだけ煽られただけに、なんだかお茶を濁された気分である。

・ダイオウイカに関してLEDで撮った部分以外のシーンが大体CGだが、それは入れる必要があったのかが納得できない。

・鮫の実験に関しては一番いい映像を繰り返し使っているところが見つらなかった。

・実写とCGに関してどこまでが実写でCGはどこからなのか、映像がバラバラで感情移入がしづらい作品。

・初めに抱いた期待感は肩透かしだった。攻撃力、持久力、防御力などステータスを科学的なデータに基づいて五角形などで表現するとエンタメ番組と教養番組、どちらとしても成り立つので良かったかもしれない。

委員からの意見に対し制作サイドから

(株式会社 WARNER BROS. DISCOVERY 高山真詩氏)

・今回はシャークウィークという企画（鮫を取り扱った番組の一举放送）の一部として放送。鮫とひとくくりにしてもいろいろな鮫がいるうえに、鮫料理などまだまだ知らない文化も多く、毎年企画を編成している。

・檻からの撮影などは日本側では詳細を把握しているわけではないが、鮫番組で培った経験をもとに安全に撮影している。

・クアダルペ島がどこにあるのかの説明があってもよいと思うが、日本側で編集することがライセンス的に困難。日本語の音声で説明している。

・鮫とイカの格闘技的な演出であおりながら、最後はCGで仮説を元に創造の産物として着地しているが、鮫というのはどういう戦略をもって餌を取ろうとしているのかを語ることが目的で、鮫の生態をきちんと説明したうえで、ああいうCGでの対決再現となったのはある意味親切なつくりになっているかと思う。

・鮫が怖くて見られない子がいるというご意見もあったが、鮫はこれだけ興味深くて楽しいということを知るきっかけとなるような、知識欲を刺激するエンターテインメント番組としての役割を果たすことができればと思う。

■フジテレビ TWO ドラマ・アニメ「監督一年生 埼玉西武ライオンズ 松井稼頭央
～新監督の船出 密着ドキュメント～」について

・密着番組としては良くできている。キャンプ初日の朝、ユニフォームに袖を通す瞬間、高橋光成に開幕投手を言い渡す瞬間など、重要な場面を撮影できたのは、松井監督、西武球団との信頼関係が築けているからだろう。番組としては、普段聞くことのできない話、その松井監督の人柄も良く分かっていい番組。

・2月13日13時13分に開幕投手をロッカールームで告げるシーンを見ることができるなんてことはまずない。この番組の大きな驚きだった。

・一番素晴らしいと思った部分は、ブルペンの中のひとりごとっぽいとおしゃべりを隠しマイクで撮ったシーン。なかなか出来ない。しかもあのセンシティブな時期に、ネガティブなことを言っている部分さえも使わせるっていうのはすごい。

・松坂大輔氏の「声が出てない」という場面は、彼の今の思い、立場、それらが強く詰まったシーンですごい。

・冒頭の記者会見のところと最後のインタビューのときでは、松井監督の顔つきが変わっている。地位が人をつくるという変化の典型で、監督として変わっていく姿をよく捉えている番組だと思う。

・余計なナレーションもなく、音楽もなく、映像で見せていくだけで構成できているのは、密着がきちっと出来ていたからだと思う。

・あまりにも密着に徹していて、球界全体や球団の現在地が見えなかったのが残念。今年のプロ野球、西武には語るべき物語がもっとあると思う。WBCで世界を制し、ある種、「宴の後」のような状態で始まったペナントレース。大谷やヌートバーに奪われた関心をどう日本球界に向けさせるのか、そのあたりを松井監督はどう考えているのだろうか。

・ディレクターの声をちょっと生かしすぎている。取材時は対象者のテンションを上げるようなことを言って心を開いてもらうのが定石ではあるが、「すごい」と声を上げるようなところだけ使われていて、視聴者には真剣さに欠けるような印象を与えてしまったのでは？ディレクターの声を外すだけでもだいぶ違ったのではないかな。

・チーム全体が様々な混乱がある中でライオンズの選手がすこし虚勢を張ってでも「今いない選手の分まで俺がやりますよ」といった表情が撮れていたらよかったのではないかな。

・ずっと褒めているのが良いのではなく、ネガティブな部分をしっかり描いた方がアスリートへのリスペクトを強く表現できる表現につながると思うので、そこが欲しかった。

・通常の6日遅れてのキャンプイン。松井稼頭央監督の新機軸である。選手が体の作り方を自分でわかっているからこそあえて遅らせたのだと思う。そのうえで2月23日になぜ終わらせたのか、松井監督の考えを知りたかった。どんな進化をするのかが見えてこない。西武球団が見せたいものだけを見せられたような気がしてきた。

・ペナントレースがまさに進行中で、その真っ最中に作品を発表するっていうことは、どうしても中間報告になってしまうジレンマが必ずついてまわる部分があると思う。重要なのはどこにゴールを持ってくるか。時系列に沿って作った作品はその現実での成績が良くない中で、視聴者が感情移入できない形になる可能性がある。

そういう視点でみると、番組のゴールは開幕戦に持ってくるのが一番良かったんじゃないかと思った。開幕投手を告げられるすごいシーンのあとの高橋選手が好投するか、どういう心境でマウンドに上がったのか、またこの開幕戦でサードの山村という三年目の若く、去年まで1軍出場がない選手を使うなどのシーンもあった。結果として開幕戦でライオンズは劇的な負け方をする。ルーキー投手をクローザーとして起用し、勝利まであと一歩というところで同点ホームランを打たれてしまう。さらにそのホームランを打った選手は去年まで西武にいた選手だった。これだけ良い物語で、素晴らしい素材がある中でもっといい使い方があったのではないかなと感じる。

現役のうちに「稼ぎ頭」と改名をするような松井稼頭央という人間が13時13分、13番ゲン担ぎすることがどのような意味合いがあるのかみたいなことを含めて、この一試合だけに絞るだけで松井稼頭央という人となりや、目指すべき野球なりが見えたのではないか。せっかくの密着の資源が生かされていない点が勿体ない。

・WBCは非常に大きなイベントだったし、ニュースターの登場によって野球を見る目がますます肥えてきていて、視聴者は視点が変わってきていると思う。そういう意味では、楽しそうなシーンや素顔を見せたいという気持ちもわかるが、視聴者が求めている期待にこたえられるような出来にはなっていない気がする

・彼の人間像についてもよくわからない。どういうエピソードをもって、どういう選手生活を送ってきたのか。西武ファンにはわかりやすいのかもしれないが、WBCで興味を持ったファンにはドラマとして伝わりにくかったのではないか。

・厳しい事を言うのは、フジテレビへの期待の裏返しと思ってほしい。プロ野球ニュースはプロ野球ファンの心の友だ。あのような番組を毎日放送できる取材力、球界に向ける眼差しの厳しさと優しさを持っているフジテレビなら、もっと面白く、西武ファン以外の心もつかむドキュメンタリーを作れるはず。今回の密着取材の成果を生かした別の視点からのドキュメンタリーをシーズンオフに見られることを願う。

委員からの意見に対し制作サイドから（フジテレビジョン 横井氏）

・この番組は埼玉西武ライオンズ球団が制作したもので、監督のホテルの部屋まで入り、キャンプ初日に初めてユニフォームを着るシーンにはじまり、ミーティングのシーンや監督室、キャンプ中にマイクを仕込んだワンプレイごとの監督の独り言などが撮影できたのは球団制作であったからこそ。高橋投手に開幕投手を伝える部分も球団の制作でないといえないことだったと思う。

・その一方で審議委員の皆様からご指摘いただいたように、ストーリー性に欠けてしまった点もあるかと思う。もともとは前半戦までのすべてを密着する予定だったが、成績が振るわなかったというところもあって、少し尻すぼみになってしまった。それならそれで開幕戦で完結させてしまった方が良かったというご意見はもっともだと思う。西武ファンにはわかりやすい内容でも、WBCを見て野球が好きになった視聴者には分かりづらく、ただ密着をただけの番組というような形に見えてしまった点なども、今後続編の作成をすすめるうえでなおいに反省すべき点だと感じた。

(委員から質問：この番組に対してフジテレビ側はどのような立場か?)

球団の監修の下、制作会社が制作しているが、フジテレビとしては編集の段階でチェックさせてもらい、意見や要望は出すというかたちでかかわっているので、全く意見を言えないわけではない。もっと早い段階で、開幕戦を軸にするなどの提案はできたと思うので、今後の課題としたい。

次回予定

- ・次回は12月開催を予定。
- ・議題はディスカバリーチャンネルとフジテレビ ONE スポーツ・バラエティの番組の予定

以上